

平成31(令和元)年度全国学力・学習状況調査結果を授業改善に生かすために

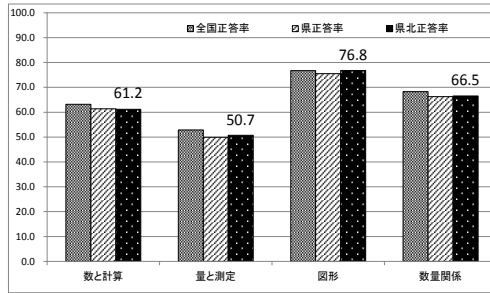
県北教育事務所

算数(小学校)

※ 領域別の正答率(値は県北地区)

※ 正答率の比較

| 正答率 | H31(R1) | 全国比 |
|-----|---------|------|
| 県北 | 65.0 | -1.6 |
| 県 | 65.0 | -1.6 |
| 全国 | 66.6 | |



【正答率から見た成果】

- 図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成することができる。**1**(2)
- 示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し適応することができる。**3**(1)

【正答率から見た課題】

- 資料の特徴や傾向を関連付けて、水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる。**2**(3)
- 示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式することができる。**4**(2)
- 示された除法の式の意味を理解している。**3**(4)

<正答率の低かった問題> 例:**2**(3)

◇ 判断の理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。

グラフ2
市全体の水の使用量 (万m³)

グラフ3
市の人口 (万人)

あやのさんが言うように、グラフ2とグラフ3を見ることで、2010年から2016年までの1人あたりの水の使用量についてわかることがあります。

2010年から2016年までの、3年ごとの1人あたりの水の使用量について、どのようなことがわかりますか。

下の**1**から**4**までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、グラフ2とグラフ3からわかることをもとに、言葉や数を使って書きましょう。

- 1** 1人あたりの水の使用量は、減っている。
- 2** 1人あたりの水の使用量は、変わらない。
- 3** 1人あたりの水の使用量は、増えている。
- 4** 1人あたりの水の使用量は、増えたり減ったりしている。

かいど: 私たちは、水を大切に使用しているといえるのでしょうか。

ゆうか: 市全体の水の使用量はわかりますが、1人で水をどのくらい使っているのかわかりません。

あやの: グラフ2とグラフ3を見ることで、1人あたりの水の使用量についてもわかります。

「資料を分類整理し、表やグラフを用いて分かりやすく表したり読み取ったりすることができるようにする。」(第3学年「D 数量関係」第5学年「B量と測定」に関連する問題です。)

番号を1と選び、次のAまたはBのいずれかで、それぞれA①、A②、A③の全てまたはB①、B②の全てを書くことができた児童48.0%でした。

A 一人当たりの水の使用量について、グラフから読み取った資料の特徴や傾向を基に、わけを書いている。

A① 一人当たりの水の使用量が(市全体の水の使用量)÷(市の人口)で求めることができることを表す言葉や式 A② 市全体の水の使用量が変わらないことを表す言葉や数 A③ 市の人口が増えていることを表す言葉や数

B 2010年、2013年、2016年の一人当たりの水の使用量を求めて、わけを書いている。

B① 一人当たりの水の使用量が(市全体の水の使用量)÷(市の人口)で求めることができることを表す言葉や式 B② 2010年、2013年、2016年の一人当たりの水の使用量を表す数

<学習指導にあたって>

ポイントは、「数学的に表現・処理した結果から判断できる力」の育成です!

○ 数学的に表現し伝え合えるように

- ・ 具体物や言葉とともに、図、言葉、数、式、表、グラフなどの数学的な表現を用いて考えたり、説明したり、互いの考えを表現し合ったりする活動を積極的に取り入れる。
- ・ 児童のつまずきの「見取り」「取り上げ」、つまずきの根拠を明確にしながらか「修正」する活動を重視する。

【「ふくしまの授業スタンダード」との関連】

- ★ 根拠や理由を明確にして自分の考えを書く学習活動を指導過程の中に位置付けましょう。
- ★ 友達との交流を通して、考えを共有・吟味させましょう。